

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業）

令和7年1月20日

協議会名：	安田町地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
安田町地域公共交通会議	【路線定期運行】 ①東島線 ②東谷線 【区域運行】 ③中里線 ④中ノ川線	地域住民等の意見を反映し、令和4年10月から路線バスや鉄道との接続を考慮したダイヤ改正による運行を実施しているほか、利用者の拡大を図るため、出前講座やイベントへ参加し路線バスの乗り方教室や、コミュニティバスの展示、ICカードですかの出張販売所の設置などを実施した。 また、地域の実情や住民ニーズを反映した公共交通網の構築による持続可能な地域づくりの実現を実現するため、令和6年3月に安田町地域公共交通計画を策定し、利用者数、収支、公的負担等の具体的な目標と評価指標を設定するとともに、令和6年10月以降のやすら号の路線再編をはじめとした、必要な実施施策の整理を行った。	B 路線定期運行については東島線及び東谷線ともに利用者数が減少している。減少している要因としては、これまで継続して利用していた人のうち、諸般の事情により利用できなくなった人がいる一方で、新規利用者の獲得が十分できていないことが考えられる。 また、区域運行については、中里線及び中ノ川線ともに利用者が増加している。理由としては、地域の利用者同士で計画的な利用（乗車予約）をしていることなどが挙げられる。 令和6年度（令和5年10月～令和6年9月）利用者数（1日平均利用者数） ① 東島線 ・891人（17.5人／日） ② 東谷線 ・698人（13.4人／日） ③ 中里線 ・47人（0.5人／日） ④ 中ノ川線 ・260人（5.0人／日） 合計：1,896人	A ①町内の公共交通利用者数を維持する（町内の公共交通利用者が前年度の1日平均92.18人／日を下回らない） 令和6年度実績値 ・高知東部交通：7,838人 ・安田／唐浜駅：31,844人 ・やすら号1,896人 ・合計41,578人（113.91人） ※【目標達成率123.6％】	公共交通全体で利用者数は前年度より増加しているが、やすら号の利用客数は減少している。 今後は、日常的な公共交通網の利用拡大を目指し、車を運転できる人であっても鉄道やバスを使える時には使う環境づくりとして、公共交通を体験してもらい、利用者の裾野拡大につなげる取り組みを実行する。
				B ②ICカードですか（記名式）を所持する人を増やす。（目標値146人） 令和6年12月時点138人所持 【目標達成率】94.5%	令和6年度には146人を超えている必要があり、目標値には届いていない。 これまで所持者の多くは高齢者であったが、本年度は通学定期として利用するために購入した学生もあり、今後も新規利用者を獲得するため、バス乗り方教室での体験や、イベントにおけるですか販売出張窓口の実施などの普及啓発に取り組む。 また、らく賃おでかけデスカサービス（令和6年度、新規申込1人）のさらなる周知を行い、申込者数を増やすことで、記名式ICカードですかの所持者数増加を図る。
				B ③やすら号の路線利用者数が前年実績を下回らない。（目標値：1,988人） 【利用者数】1,896人 （対前年度比：89.1％） （対前々年度比：105.3％） ※（ ）内前年度実績 東島線 ：891人（1,087人） 東谷線 ：698人（772人） 中里線 ： 47人（38人） 中ノ川線：260人（230人） 合計：1,896人（2,127人） ※参考 【収支率】 3.30％（前年度：3.88％）	地区別意見交換会や交通事業者等関係機関にヒアリング等を実施することにより、地域住民等の意見を把握し、可能なものは運行計画に反映するなど、利用者の拡大を目指すほか、公共交通利用者の組織化を通じて、住民による公共交通利用を啓発する活動を推進する。